

船橋市立葛飾中学校×荒井恵子コラボレーション授業

「モノトーンの美しさ～喜怒哀楽を表現する」



生徒の作品



船橋市教育委員会では、子供たちに現代美術家の表現を体験的に学んでもらうため、令和3年6月から7月にかけて、市立葛飾中学校の2年生を対象に、本市在住の現代美術家・荒井恵子氏の作品鑑賞と墨絵制作の授業を行いました。

同校では「国際理解教育」をテーマに、日本の伝統文化を学ぶカリキュラムを進めており、今回の制作体験授業では、生徒たちが「喜怒哀楽を表現する」をテーマに、墨と和紙を使って自身の思いや感情を抽象的に表現するワークショップを実施しました。生徒一人一人が、和紙に水を含ませた筆で描いた上に、薄墨を大きな刷毛で塗り、水で描いた形を浮かび上がらせる手法を用い、「喜」「怒」「悲」「心の中」を表した作品を順に制作。生徒たちの作品381点は、令和3年12月に船橋市民ギャラリーで開催された所蔵作品展で展示しました。



授業概要

日程：令和3年6月21日（月）～6月25日（金）対話型鑑賞の授業

令和3年6月28日（月）～7月5日（月）墨絵制作の授業

会場：市立葛飾中学校 美術室

対象：市立葛飾中学校2年生 11クラス

授業者：市立葛飾中学校美術科 杉田 茜 教諭

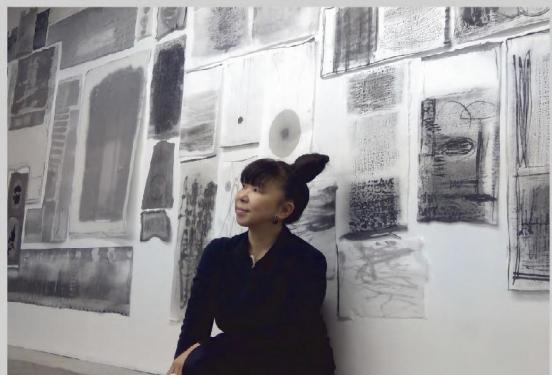
講師：現代美術家 荒井 恵子氏、市教育委員文化課 学芸員

講師プロフィール

荒井 恵子（現代美術家）

- 1963年 東京都生まれ、船橋市在住
- 2002年 東京ワンダーサイトにて個展「耳を澄ませて」を開催
- 2013年 褚絵《空》《宙》を制作し、西船橋の茂春山宝成寺に奉納
- 2017年 福井県の岡太神社・大瀧神社に褚絵《起承転結》を奉納
- 2018年 日本で唯一の水墨画専門の美術館・富山県水墨美術館で個展「いろいろのいろ墨のいろ 荒井恵子と子どもたち」を開催
- 2019年 「One Hundred Shades of Grey, The Storrier Stearns Japanese Garden」
(アメリカ・ロサンゼルス)

など、現代における墨と和紙による表現の可能性を追求している。



1. 事前授業

【対話型鑑賞の授業】



「対話型鑑賞」とは、先生や学芸員から作品についての知識や情報などを一方的に聞くのではなく、生徒が主体的に「みる」「かんがえる」「はなす」「きく」「はっけんする」ことをキーワードに、描かれたものから作品の意味を探るグループワークで、自分なりの作品の意味を見出す美術鑑賞の方法です。

今回の授業で、荒井氏の展覧会出品作品である《天と地の宴》の対話型鑑賞をすると、「環境汚染が進んだ未来」や「太古に生命が生まれた頃の地球」の様子に見えてきたと、時間や場所などあらゆる観点から作品を鑑賞することができました。また、本物の美術作品を直に近くで見ることで、和紙の質感や墨のかすれやぼかしなど、技法についても考えるきっかけとなりました。

2. ワークショップ

【墨絵制作の授業】

①イントロダクション

荒井氏が自己紹介や授業の流れの説明を行いました。
実は荒井氏は葛飾中の卒業生。



②デモンストレーション

「喜怒哀楽」がどんな感情か生徒に問いかながら、荒井氏の手元をモニターに映し、壇上で作品を制作し、全体で共有。



*和紙に水を含ませた筆で描いた上に、薄墨を大きな刷毛で塗り、水で描いた形を浮かび上がらせる手法を用いて作品を制作。

③制作

生徒たちが「喜」、「怒」、「悲」、「心の中」の順で作品を制作しました。筆や刷毛の使い方を各々工夫しながら全身を使うなどして自分の気持ちを表現。手が止まらない様子でした。



④発表

荒井氏が生徒の間を回り、何を表現したのか聞きながら全生徒の作品を紹介し、皆で鑑賞しました。



展示

令和3年12月に市民ギャラリーで開催した市所蔵作品展「荒井恵子 船橋三部作 - 宝成寺・三番瀬・玉川 -」にて生徒作品381点を展示しました。



3. 授業をふりかえって

【生徒たちの声】

- 芸術の仕事をしている荒井恵子さんの世界観や、どんな気持ちを込めて作品を作るのかを知ることができた。ワークショップを通して、和の美しさを感じることができて、水墨画を直接教えてもらえてとても嬉しかったし、思い出になった。作品への思いなど、今後の美術の授業に生かしたいと思った。
- 世界に「形」として現れることのない「感情」をテーマに水墨画を描いたのはとても難しく、面白いことだった。「形」がないから何を描いても間違いじゃない。でも、「形」がないから何を描いたらいいのかわからない。この2つが難しいポイントだった。
- 荒井恵子さんのワークショップが印象に残った。自分の気持ちがそのまま作品になっていくのがおもしろかった。怒りを表現するときもすっきりした。



【講師・荒井恵子氏の声】

今回の授業では、美術を通して自分の心と向き合い、それを表現するおもしろさを伝えたいと思いました。私もこの中学校の卒業生ですので、みなさんと共に制作できたことは、とても感慨深いです。感じ方考え方は人それぞれで、それが色々な表現となり、どれも魅力的なのだと気付いてもらえたなら嬉しいです。何事も興味を持って心が通ったときに、様々なことが見えてくるのですね。

【市立葛飾中学校・杉田茜教諭の声】

荒井さんの作品のパワーとご本人のパワーに刺激を受けました。
見えない感情を描くということに、生徒は戸惑ってしまうかなと思いましたが、
新しい表現に出会い、キラキラした目をしながら楽しんで作品を制作していました。
思春期の複雑な感情が多様な表現であらわされており、私自身も新鮮な体験となりました。



葛飾公民館での作品展示

会期：令和3年11月1日（月）～30日（火）



ワークショップで制作した水墨画作品を、その後の授業で団扇に仕立て、地元の葛飾公民館ロビーで展示。地域の皆さんにも成果作品を見ていただける機会をつくることができました。



公民館ロビーの様子

習志野台中学校美術部 夏休み特別企画 「対話型鑑賞と現代美術作家による水墨画の制作体験活動」

日 時：令和3年8月27日（金）9:00～12:00

会 場：市立習志野台中学校 美術室

対 象：市立習志野台中学校美術部1・2年生

顧 問：市立習志野台中学校美術科 星野 明世 教諭

講 師：荒井 恵子氏、市教育委員会文化課 学芸員



【市立習志野台中学校・星野 明世教諭の声】

美術部の活動では、例年夏休みに「画像ではない、本物の美術作品を観に行く」という目的で、美術館見学を行っていましたが、新型コロナウィルス感染症の影響で、実施することができなくなっていました。中学校で本物の美術作品を鑑賞し、その作品を制作した現代美術家・荒井恵子さん本人のワークショップを行なったことは、学校という場にいながら、日常とは異なる特別な体験になりました。

東武百貨店船橋店 アートフェスタ 「船橋ゆかりの作家二人展」での作品展示

会期：令和3年10月22日（金）～27日（水）
会場：東武百貨店船橋店 4階



展覧会見学会「墨から生まれる世界」（小学生）

令和3年度船橋市所蔵作品展会期中、市民ギャラリー近隣の小学6年生を対象に見学会を実施。本見学会は「制作」と「鑑賞」を結ぶ試みとしてプログラムを構成しました。

児童たちは「にじみ」「ぼかし」「かすれ」などの技法を体験し、その後、展覧会場で学芸員による対話型鑑賞を行いました。各々作品を鑑賞した後、「今の気持ち」と題して、自分たちの感情を墨と水で表現。児童たちからは「習字で墨を扱うのはあまり得意ではなかったけど、墨絵で自分の表現ができた、とても楽しかった」「墨というのはただ黒いのではなく、自分の気持ちによって色が変わっていくということを学んだ」「荒井さんの作品を見てどの作品も絵の外にも（その）続きを感じられた」といった声がありました。

【実施校】

- 市立海神小学校 6年生3クラス 令和3年12月14日（火）
- 市立湊町小学校 6年生3クラス 令和3年12月15日（水）
- 市立船橋小学校 6年生3クラス 令和3年12月17日（金）



令和3年度船橋市所蔵作品展

荒井恵子 船橋三部作 一宝成寺・三番瀬・玉川一

船橋市民ギャラリーでは、市が所蔵する作品と作家の活動を紹介する展覧会として、市内にアトリエを構え活動する現代美術家・荒井恵子氏の個展を開催。荒井氏はこれまで墨と和紙を使った水墨表現により自身の感情や想いを抽象的に表現してきましたが、近年、作品と場所との関係性を探る映像作品や写真作品に取り組み始めました。本展覧会では、地元「船橋」をモチーフとして制作した作品を中心に64点を紹介しました。

会期：令和3年12月7日（火）～19日（日）

会場：船橋市民ギャラリー

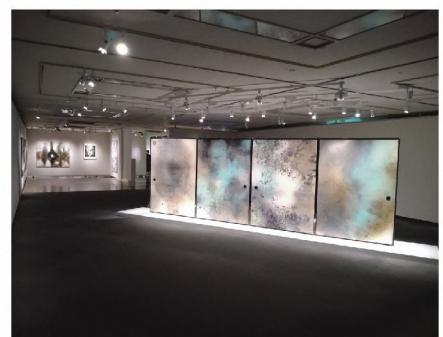
主催：公益財団法人船橋市文化・スポーツ公社

共催：船橋市教育委員会 後援：船橋市

助成：芸術文化振興基金／公益財団法人 土屋文化振興財團

協力：株式会社東武百貨店船橋店／株式会社堀内カラー／ギャラリーサンカイビ

Grandpa Graphics, Inc.／船橋市立葛飾中学校／船橋市立習志野台中学校／茂春山宝成寺



発行：船橋市教育委員会文化課 令和4年3月

住所：〒273-8501 船橋市湊町2丁目10番25号

TEL:047-436-2894 E-mail:bunka@city.funabashi.lg.jp

編集：益子実華（文化課学芸員）